

興梠 実議員



Q JR豊肥線電化の本社陳情の感触と可能性の有無は……？

A

村長

まず、JR豊肥線の天津駅から宮地駅までの電化については、平成9年から阿蘇郡町村会の要望事項として、熊本県町村会総会で採択をいただき、関係機関に要望を行っている。JR側からは専務に対応いただき、阿蘇の重要性は認識しているものの莫大な予算を必要とするため、電化以外の方法で阿蘇の活性化を検討しているという、大変厳しい回答をなされている。

しかしながら、阿蘇は九州のまんなかに位置しており、阿蘇をポイントとした九州各県のネットワーク整備は急務なので、豊肥本

線の完全電化が理想ですが、まずは立野まで、そして宮地駅までを視野に入れ、国道57号線の4車線化促進と平行して、今後も県などと連携して一日も早い電化の実現を目指していく。

Q

南阿蘇鉄道に「白川水源駅」を新設しては？南阿蘇鉄道の利用促進、ひいては地球温暖化防止対策にも寄与できると考えるがどうか。

A

村長

南阿蘇鉄道白川水源駅新設についてであるが、南鉄は駅の新設により利便性を高め、また、観光ポイントまでのアクセス手段として、更には駅舎そのものを観光施設として整備振興を図ってきた経緯がある。

南鉄の沿線市町村による、南鉄等を含む公共交通活性化を目指す協議会を設置して、全体的な中長期計画を策定して、新駅を含めた検討を行いたいと思う。その協議会の中で、各駅の利用状況、周辺住民のニーズの把握、観光・ツーリズム推進、地域づくり展開等と併せた検討を十分行っていく。

まずは上記のような実態調査、計画づくりと併せ、地元が一体となった盛り上がりを作り出してい

くことが肝要かと考えている。

南阿蘇鉄道にたずねたら、現地付近は線路勾配もゆるやかであるため、ホームそのものの建設費は3千万円程度であるとの回答であった。しかしながら、白川水源の玄関口ということで駅舎を含めた周辺整備は不可欠なので、ぜひ実現するよう、進めてまいりたい。

Q

南阿蘇鉄道の学割とJRの学割額が著しく違い、立野駅まで保護者が送迎しているケースがある。旧高森線存続運動中から「高森線は人財育成路線」と言われたことがあり、まさしくそうであったと思う。そのような観点から、JRとの差額分について将来村を担う子供達への投資と捉え、その差額を助成したらと思うが、村はどのように考えているか。

A

教育長

1ヶ月で定期を買ったときに南阿蘇鉄道の学割は55%、3ヶ月で60%、半年定期を買えば62%があるが、乗車賃の方が高いのでJRの学割と比べると高いのが現状である。そのため立野まで迎えに行っているの、村のほうで何とか出来ないかとのことであるが、私

ち教育委員会で助成をする対象は義務教育ですから、高校生に何とかといわれても、なかなかできないことはご理解いただきたいと思っ



「白川水源駅」構想の候補地の一つ